

# 僕たち Harmer's camp

宇和島市石心・白浜地区  
Harmer's camp 代表  
**二宮 新治**  
(宇和島市)



無くなる町に生まれたもの

宇和島の市街地を抜け、曲がりくねった海岸沿いの道をしばらく走ると広がる、九州まで見渡せる宇和海とみかんの段々畑。これが僕たちの町、石心・白浜地区です。

都会の方から見れば自然に囲まれた素晴らしい所と言えるかもしれませんが、飾らずに言えば四国の端々にはよくある漁業と農業を主体とした、ありふれた小さな町です。



運動会

な問題を抱えており、保育園・小学校・駐在所など、一昔前には当たり前になっていたものが次々と無くなっています。

そんな逆風ばかりの現状を「どうにかせんといけん!」と立ち上がり、地元を愛する19〜34歳のメンバー23名で平成25年6月に結成したのが石心・白浜青年団「Harmer's camp(ハーマーズキャンブ)」です。

昔から人が集い語り合う場所「浜」、地域を耕す「Famer」、留まらず地域の中を動き回る「Camp」。結成よりまだ日は浅いですが、名前に込めた三つの思いを胸に活動をしています。

まだまだペダルは重たい

当たり前のことですが自転車に乗る時、漕ぎ出す最初のペダルはとても重た

やはり日本各地の田舎町と同じように僕たちの町も決して景気は良くはなく、過疎化や少子高齢化を始めとした様々

くってしんどいですが、漕ぎ続けると徐々に軽くなって、やがて漕がなくても惰性で進むことが出来るようになります。地域を一台の自転車に例えるなら、僕たちの役目は最初のペダルを踏むこと。乗り方を教えてくれるのは僕らより上の世代。動き出したものを乗りこなすのは今の子どもたち。

誰もがやればいいのはわかっているけど敬遠しがちな事柄に取り組み、好んで傷だらけになり泥にまみれ筋肉痛になることこそ僕たちの役割だと思っています。

地域の発展と一言で言えども、目指す形は人それぞれ。しかしながらいずれにも共通することは「人を増やす・人が減らない」ということではないでしょうか。地元を離れていた人が帰って来たり、都会からの

移住者が増えたりすること

で一定の成功を得ることが出来るように感じます。これは実現するにはとても遠い道の

活動する仲間達



活動する仲間達



かき氷居酒屋



**人がつながるイベントを**

りですが、Harner's campが漕ぎ出す自転車はそこに向け、まずは地元の魅力発信や地域の絆を深められるイベントなどを行いながら今出来ることに一歩一歩取り組んでいます。

僕たちの活動はまだ日が浅いのですが、すでに恒例行事となっているものに「かき氷屋」と「運動会」があります。これはどちらも中止となりそうだったものを引き継いで行っているイベントです。かき氷屋は昔から中学生が行うのが恒例でしたが、少子化による人数の減少から中止に。運動会は小学校の閉校と同時に中止になりました。

そんな状況の中、僕らが引き継ぎ、かき氷屋は今年で3年目。運動会は2年目を迎えます。

引き継ぐにあたり、今までは違うこともやろうというだけで、これまでは昼間だけだったかき氷屋を夜はお酒も飲めるかき氷居酒屋をしたり、運動会の競技もエンターテイメント性の強いものを取り入れたり、



イベント、浜辺のごはん1

遊び心を加えながらより楽しめる内容に。

また、今年のゴールデンウィークには、初めてゼロから作り上げたイベント、「浜辺のごはんvol.1」を開催しました。これは白浜地区の特産である、天日干ししたちりめん・釜揚げや生のしらすを網元の雰囲気そのままに浜辺で味わおうというイベントです。

Harner's campのFacebookと少量のチラシを配っただけの告知にもかかわらず、お食事・お買い物合わせ当初50名規模で予定していたところ、200名を超える方々にご来場いただき、準備していたちりめん・米・みそ汁などを慌てて追加する嬉しい誤算となりました。

また、当日はメディアの取材も複数お越しいただいたこともあり、早くもSNSの開催を希望する声も届いています。それ以外にも今年度は消防士のメンバーによる地元を対象とした救急救命教室や、地元のおばちゃんたちが先生となり若い女性に郷土料理を伝える料理教室などを予定しています。

学校を始めとし、婦人会や老人クラブなど人が集まる場所が無くなった昨今、狭い

今はまだまだ地域の絆や足場を固めることで精一杯ですが、いずれは目標の根幹である「人を増やす」ということにも取り組んでいきたいと思っています。近い将来、問題になってくるであろう空き家の増加や基幹産業の一つ農業の耕作放棄地問題。これらは非常に大きな難題ではありますが、同時に人を増やす可能性もあると考えています。



イベント、浜辺のごはん2

地区ながらも縦横のつながりが希薄になりつつありますが、僕たちが活動することですながらを再構築出来るようにしていきたいと思っています。

**ありふれていな  
い町へ**

この町で、この人たちと暮らしたいと思ってもらえるように魅力を発信し、空き家が人が住み、畑を再生することで活気溢れる町となる。数年後にはそこまでやりたいねと、みんなで集まりお酒を飲んで気の大きくなった時にはそう話合っています。

僕たちは世界を変えてみせる！とは思いませんが、この人口600名の狭い石浜・白浜地区の未来を変えたい！強く願っています。